

特集『学校とはその② ～子ども達にとって学校とはどのような場所だろう～』

今年度、知夫小中学校は4月8日に始業式を迎え、令和2年度の順調なスタートを切ったと思いましたが…。翌日の9日には、鳥根県内に新型コロナウイルス感染者が確認され、翌週の4月13日から5月6日まで臨時休業をすることになりました。休業期間中、教職員は「課題（宿題）づくり」「家庭訪問」「授業再開へ向けての準備（教材研究）」などに取り組みましたが、目の前に子ども達の姿はありません。それまであたり前のように、子どもを目の前にし、「どうすれば子ども達を成長させることができるのか。」ということを考えていたのに、突然その環境が取り払われてしまった訳です。

このような中、教職員はいろいろなことを考える時間があったのではないかと思います。そこで、聞いてみました。『臨時休業期間中、皆さんはどのようなことを考えていましたか。特に“子ども達にとっての学校の存在について”皆さんの考えを聞かせてください。』

教職員からは、様々な考えや想いが返ってきました。紹介します。

質問：子ども達にとって学校とは ※考えたのは教職員です

- ・いろいろなことを学習するところ ・勉強や人との関わりなど、たくさんのことが学べる場所 ・世の中のことを学べる場所
- ・新しい自分の発見と、可能性を広げられる場所 ・できることを増やす場所 ・友達と過ごせる楽しい場所
- ・家族以外（友達、先生、地域の方）とのつながりを持つ場所 ・第2の家族 ・人の温かさを感じることができる場所
- ・互いの存在を確かめる場所 ・人と関わることで意味が生まれる。ただ教科の学習をするだけではない場所
- ・学校内外の人と関わって、知識だけでなく、知識を活用する力を身につけるとともに、人格を形成する場所
- ・臨時休業開けに久しぶりに友達と顔を合わせて話をしている子ども達は、全員とても嬉しそうだった。学校は大切なコミュニケーションの場なのだと感じた。
- ・喜びとか悔しさとか疑問とか、そういうことを感じることはとても大切なことで、教師や友達、地域の人達と過ごす学校はそれを感じ成長していくための大切な存在
- ・様々な感情を抱く場所 ・悩む場所 ・苦しいことがある場所
- ・来なくなる場所 ・必要な場所 ・日々の生活の基盤となる存在 ・生活基盤の一つとなる場所 ・なくてはならない存在

先月号では、『教職員にとって学校はどのような存在なのか。』という問いかけをし、集めたものを紹介しました。5月7日より、学校が再開され2か月が経とうとしています。様々なことを考えることができた臨時休業期間を「貴重な期間」と捉え、蓄えた力（考え）を大切に、日々の教育活動に取り組んでいきたいです。

最後に、臨時休業中に校長が考えたことです。紹介します。

「学校とは」

学校が臨時休業となり、子ども達の姿が学校から消えた時、目の前にいない子ども達の学びをいかに保障するか、どう支えることが学校としてできるのかを考えさせられました。そしてその時、子どもの育ちは学校だけではなく、家庭や地域に支えられながら行われていることに改めて気づかされ、それぞれの頼もしさを感じました。

学校が再開された今、これまで以上に学校・家庭・地域のつながりを意識し、連携を強めながら子ども達を支えて行きたいと考えています。

校長 若本 剛



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
【HP】 <https://www.chibumura.ed.jp/>

【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

本気で頑張りました なわとび交流会

島前バスケットボール大会が中止となり、子ども達が「本気」で取り組めるものは何かないかと福井小学校の先生と一緒に考えたのが、オンラインでの「なわとび交流会」でした。練習を始めたばかりの頃は、「先生に言われた練習」をする子ども達でした。しかし、大会に向けて自分の目標を決め、徐々に「本気」で取り組むようになりました。そして、最後には「自分達で考えた練習」ができるようになり一か月間の成長を感じました。



練習では「一秒でもタイムを伸ばしたい。」と何度も計測をしたり、「どうすればたくさん跳べるのか」と悩んだりしながらの毎日でした。悩みを解決するために、話し合いもたくさんしました。

迎えた交流会当日は、緊張しながらも練習の成果を発揮し、自分の記録を更新し、チームのために汗を流して跳ぶ姿が多く見られました。「仲間と協力し「本気」で取り組む」という目標を達成することができ、見に来てくださった保護者の方や先生方にも感動を与えることができたのではないかと思います。

最後になりましたが、交流会のオンライン関連は全て教育委員会に設定していただきました。お陰で、子どもも教員も安心してなわとびの競技だけに集中することができました。ありがとうございました。

【体育主任】

〔児童の感想から〕
六年
はじめはすぐきんちようしたけど、あとからだんだんなれてきました。本番でくやしい思いをした人もいれば、嬉しい思いをした人もいます。でも、チームでは、勝つたのでよかったです。私は、前とびが十一分とべたのでよかったです。また、ほかの学校と戦うことがあったら、また全力で取り組みたいです。

私は、勝てないかと思っていました。でも、みんな約一か月がんばった成果を出して大差で福井に勝つたのがとても嬉しかったです。前跳びが十分五十八秒しか跳べなかったのに、まさか本番で三十分跳べるとは思いませんでした。一か月間なわとびをがんばったかがあったなどと思いません。私の中で死ぬまでなわとび大会のことは忘れなれないと思います。



これまでの応援に感謝 ソフトテニス部交流会

六月二十一日に、
隠岐郡（島前地区）

ソフトテニス交流会
が行われました。非
常に残念なことに、
今年度は新型コロナ
ウイルス感染症の関
係で隠岐郡総体を行
うことができず、交
流会という形で三年
生最後の試合を迎え
ることになりました。
しかしそのような辛
い状況にも負けず、
男女とも全員が一丸
となって戦い、選手
は今までの練習の成
果を発揮して精一杯
のプレーをしていま
した。最後の試合で
見せた三年生の笑顔
や涙に、これまで部
活にかけてきた思い
を感じることで、き
良い形で締めくくり
をすることができた
ように思います。三
年生の思いを今度は一・二年生が受け取り、新
体制での活動を頑張っていきます。今回の交流
会を一つの節目とし、全員が新たな目標に向か
って日々を過ごしてくれることを願っています。



【部活動顧問】

〔生徒の感想から〕

男子ソフトテニス部キャプテン

六月二十一日に島前地区のソフトテニス交流
会がありました。今年度は新型コロナウイルス感
染症の影響で数々の大会がなくなってしまいま
した。出雲地区や郡総体、県総体。とてもショ
ックでした。しかし、今回、僕たち三年生のた
めに交流会という形で最後の大会を開いていた
だきとても感謝しています。最後の試合では全
てのペアが勝つことができ、有終の美を飾るこ
とができました。

今まで三年間、部活を続けてこられたのも、
保護者や地域の方々からの応援や先生方のサポ
ートのおかげです。最後まで部活動をやり遂げ
ることができ、今はとても満足しています。こ
の長いようで短かった部活動で得たたくさん
の力は、僕のこれからの
人生に役立つものです。
部活動で学んだことを
忘れず今度は受験に向
けてがんばっていきたく
いです。

支えてくださった保
護者の皆様、指導して
くださった方、応援し
てくださった方、この
域の方々や先生方、こ
れまで本当にありがと
うございました。

女子ソフトテニス部キャプテン

私は今までキャプテンとしてみんなをまとめ
てきました。私はキャプテンをして少し成長を
感じました。キャプテンをする前は、試合で点
を取られたらすぐに下を向いて声を出さなくな
ってしまいました。でもキャプテンになってからは、
自分のことだけを考えるのではなく、「下を向い
た姿を見せてはいけない。チームの雰囲気を変
えなければいけない。」と声をしっかり出すよう
心がけました。部活動を通して、心が強くなっ



た気がします。

最後の交流会でも負
けた試合はありましたが、チームのためにし
っかり声を出すことが
できました。悔いはあ
りません。部活動で成
長した強い気持ちを、
これからの受験勉強に
生かしてがんばってい
きたいです。これまで
支えてくださったたく
さんの方々に感謝しま
す。本当にありがとうございました。

民生委員あいさつ運動

毎月第二水曜日、民生委員の皆さんがあいさ
つ運動で来校されます。あいさつ運動について
話を聞いてみると、学校を訪れてのあいさつ運
動は、かれこれ十五年ほど続いているそうです。
「ここの二年の子どものあいさつについては、
「立ち止まって、お辞儀をしてあいさつをする
子どもが増えて驚いている。」というお話を聞き
嬉しくなりました。しかし、長年のあいさつ運
動での子どもの様子も聞いてみると、「あいさ
つがよくできている時もあれば、そうでない時
もある。」というお話も聞きました。子ども達の
様子をよく見てくださっていることに、有り難
い気持ちになりました。

ある民生委員から、「朝
一番のあいさつは、夫婦
であつても大切。それで、
気持ちのいい一日が流れ
始めるからね。」というお
話があり、皆さんがそれ
ぞれのご家庭を振り返り
笑っていました。民生委
員の皆さんの温かいお気
持ちは大切に、子ども達
のあいさつの習慣を育て
ていきたいです。



児童・生徒会だより①

限られた時間の中、中学部三年生を中心に、
児童・生徒会が様々な取り組みをしています。
今月・来月号で、各委員会の取り組みを委員長（生
徒会長）の言葉で紹介します。

〔児童・生徒会の意気込み〕

保健体育委員長

今期の保健体育委員会は、手洗い、うがいを
習慣づけ、体力を向上させるような企画を立て
るといふ委員会目標をもとに活動をしていきま
す。健康面では、アルボース入れやペーパータ
オルの補充、ポスターでの呼びかけなどをして、
感染症の予防をしていきます。運動面では、全
校生徒の体力を楽しく向上させることを目的に、
小学生のらんたんタイムや中学生の放課後体力
作りの企画などを行
います。また例年と
同じで今年も給食の
放送をしますが、ハ
キハキとした声で食
について全校に放送
したいと思っています。
去年とあまり活動自
体は変わってはいま
せんが、去年を超える
「意味のある活動」
をしたいと思っています。



図書購入費の寄贈について

今年も西ノ島在住の升本富雄様より、児童・生
徒一人あたり千円の図書購入費の寄贈がありまし
た。子どもたちが、ますます読書好きになるきつ
かけになってくれると思います。升本富雄様、ど
うもありがとうございました。

【図書館担当】